

神奈川山梨教会連合会たより

かりん

「駅弁を配る」

木本雅史先生は、昭和四十九年七月十日、金光教横須賀教会長木本紀義先生・田鶴子先生の長男として出生されました。妹・弟と共に教会で育ち、大学卒業後、大手飲食系企業に入社。前妻の死をきっかけに、金光教師になろうと決心され、平成二十年に金光教学院に入学、翌年二十一年に金光教師となりました。

卒業後二年半程、芝教会で修行され、現在は横須賀教会にて日々の御用と、金光教国際センターでの御用にあたられています。また、前々から構想にあつた『街頭取次』を、御用の合間に実践中。そして先頃、トロント教会在籍教師のオリビア先生と婚約されました。

○金光教の若手教師の間で話題になっている『街頭取次(正式名称はないようですが、便宜上つけていただきました)』、どういったものか詳しく教えて下さい。

雅史先生(以下・雅)・横須賀教会の最寄り駅・横須賀中央駅の広場の一角に、簡易の

机やいすを置いて、無料で悩み相談にのっています。週に3回(毎週火・木・土 午後一時半から六時まで、雨天中止)開催しています。

○どうしてしようと思われたのですか？
雅…色々な理由がありますが『前妻の死』

も大きなきっかけです。

前妻は『鬱』と全身に原因不明の疼痛が起こる『線維筋痛症』に苦しんでいた

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第 45 回 横須賀教会 木本雅史先生



ました。ところが当時の私は、信仰は無意味だと考えていたので、神に祈

る時間があれば一円でも多く貯蓄をし、最高級の医療環境を整えるべきだと考えていました。服用している薬の副作用のせいで子供が産めなかった妻は、自分が私の人生の足枷になっていると思ひ込み、彼女なりに私を幸せにしようとしたのでしよう。自ら命を絶ってしまいました。

最愛の妻を喪い、生きる希望を無くした私を救ってくれたのが、かつて嫌っていた金光教の信仰でした。自ら死を選ぶほどの難儀を抱えた人達を、何とか助けたいと教師になったものの、教会で待っていてもそういった方は来られない。その時に「自分が外に出ていけばいい」と思い付いたので

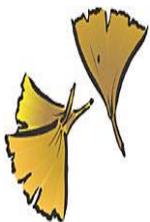
○とても思い切った行動ですね。最初は誰も来なかったのでは？

雅…私もそう思っていたのですが…。今年の六月二十四日、初めて椅子を置いて看板を立てたら三十分後にはもう座り始めました。中には涙をポロポロ流しながら身の上話をされた主婦の方もいて、初日だけでも六名の方が来られました。

○そんなに…凄い事ですね。

雅…それだけ、悩みをかかえている方が多いのだと思います。リピーターが多く、行列が出来ることもあります。今なぜか占い師の弟子も出来ました(笑) その方は先日子供と共に参拝になり、今度はお母さんをお手引きされるようです。街行く人の悩みを聴き、寄り添ってあげることで、少しでも悩みが軽くなればいいと取り組んでいます。神様のお力で、教会に足を運ぶ方も増えてきました。

(4 ページ上段へ続く)



教師信徒共励会が開かれました

9月9日(土)、平塚教会で教師信徒共会が開催され、11教会から29名が出席しました。

開会御祈念後、川込光貴連合会副会長より、「信心の捉え方はそれぞれである。本日のお会を通して尚一層ご自身の信心を見直す機会にして頂ければありがたい」と挨拶があり、引き続き、高橋正一研修部次長の司会の下、鈴木徳昭さん(平塚教会)から「おかげは和賀心にあり」というテーマの発表がありました。

鈴木さんは「自宅の神前で天地書附を唱えている時、『おかげは和賀心にあり』という箇所が胸に響くものがあった。そして、この言葉の意味を知りたくなり調べてゆくと、『和賀心とは、やわらぎよろこぶ心である』という説明に触れ、さわやかな感動を覚え、さらに深く追求をしたくなった。

そして、『和賀心』とは、不安や苦痛、難儀から解放され、充実したおだやかな心であり、さらには、心が常に神様に向かい真一心になることで、自分の望み通りになることだけがおかげではない、ということが分かった。さらに金光教の信心をしていく上で、この「やわらぎよろこぶ心」を求めて行きたいと思う」と、ふとした気付きから信心の進展があったことを話されました。

また次に、奥川美智雄師(平塚教会)から「もしも私が信徒なら」というテーマで発表がありました。

「教団の御用、教区の御用、連合会の御用、教会の御用など、様々な御用がある。その御用を通して、おかげを受けてゆく道筋であると思う。様々な御用を通して、様々なことが見えてくるのではないかと、御祈念や教話の拝聴など内面だけでは無い、信心の展開に向けた取り組みを話されました。発表終了後、熊坂和枝さん(平塚教会)より「ボケ防止体操」の紹介がありました。

その後、休憩をはさんで、参加者各自が自己紹介をし、感想を語り合いました。

- ・御用を通しておかげを頂いている
- ・何事も信心で受け取ることが大切
- ・信心の喜びを家族に伝えたい

・大きな病気を通して神様の御用が大切であることを教えて頂いた
 などなど、盛況のうち時間となり散会しました。

(横山光雄)



○かりんの輪 「輔教を頂いて」

藤沢教会 輔教 高橋眞佐男

平成二十六年にご本部で輔教講習を受講し、教主金光様より藤沢教会から五人揃って輔教任命を頂き、早三年が経ちました。寄稿するに当り、輔教の役割・意義等について改めて思い返させて頂きました。

輔教について、金光教教規では次の様に定められています。

- ① 本教の信心を伝えるため、進んで教会活動を担う。
- ② 教団活動に参画する。
- ③ 輔教は、教団に所属し、教会又は本部に在籍する。
- ④ 本人の願い出により在籍教会長の推薦を受け、教主が任命する。

転居等で教会を替わった場合も、「教主が任命し教団に所属」しますので、身分は輔教のままとなります。

「何をしたら良いか分からない」と言う方もおられますが、教会の中には実に沢山の御用があり、尽きることはありません。

教主金光様に任命頂くという意味は、「神様に使われる手足になる」御用は神様が与えて下さる」ということで、人に言われてとか、義務ですることでもありません。先ずは自分で出来ることを進んでさせて頂く事だと思ってい

第2回輔教懇談会報告

9月3日(日)、今年度第2回の輔教懇談会が、武蔵小杉教会で開催され、8教会から14名の輔教が出席しました。

懇談会は、開会行事の後、会長挨拶、出席者の自己紹介、そして2人の発題者からの発表がありました。以下に発表の要旨を掲載します。

○岡本和子さん(甲府教会)

「輔教になったきっかけ」

私は母方の祖父母からの信心で、三代目になる。が、若い頃はほとんど教会にお参りしていなかった。甲府教会がどこにあるかもよく知らなかったくらいだ。

平成13年、大腸がんと診断され、人工肛門を付けることになるだろうと言われた。その時、人工肛門で5年生きるよりは、自然のまま3年生きられればいいと考えていた。教会にお参りし、お届けした。不思議なご都合を頂き、病院を替った。人工肛門は使わずとも大丈夫だろうという診立てで、手術を受けた。退院後も、月例祭に参拝すると、参拝前不具合のところがあったのに、帰り道にはよくなっている、ということが続いて、不思議なおかげを頂いていると思つた。

金光教のことは何も知らず、勉強したいなあと思つて、先生に本を貸して頂いて読んだ。さらに勉強したいなと思つた時、先生に「本部で研修があるよ」と教えられて、

行ったのが輔教の講習だった。だから先生を輔ける役目や、布教の役目のことも自覚していなかった。4年後に追加講習を受けた頃から、これではいけないと思い、先生のお手伝いをしたり、研修会になるべく出席するように心がけた。他教会に出かけると、それだけで参考になる。例えば年間予定表が貼つてあるのを見て、これは便利だとお話したら、すぐに作つて貼つて下さった。さらに、看板に「こんこうきょう」とふり仮名をしているのを見て、お話したら、また先生はすぐにやつて下さった。今は遣り甲斐を感じている。

○大塚東子さん(神奈川教会)

「ご本部での輔教研修会を受けて」

5月にご本部で追加講習を受けた。その時のお話の中に、具体的にお手引きした例があつたのでお話したい。

Aさんは障害のある子を抱えていて傍目には大変な日常のように見える。が、いつも明るく喜びにあふれて生活している。「私は金光教の教会に参つているから、元気で居られる」と常々誰にも話をしていた。お友達がお子さんのことで悩んでいた時、「教会へ参つてみんね？」と誘つたら、ついて来てくれたと言う。またBさんの息子さんに少し障害のある子が生まれた。お嫁さんはノイローゼ状態になった。ところが姑のBさんはいつも笑顔で明るい。お嫁さんが

(4ページ中段へ続く)

ます。

①自ら進んで教会の御用を行う。

②教会長に寄り添つて輔ける。

③教会長と願いを共有する。

輔教のお役を平たく言えば、「教会長を輔佐する働き」です。教会毎に考え方や課題、方法等が異なり、教会を超えて統一的なテーマや目標を決めて取り組む事はありません。御用は日常的には在籍教会で行いますが、パソコン作業等、自宅でもできることがあります。夫々の教会の中で、教会長と相談しながら御用することが大切と思います。

藤沢教会では、ほぼ毎月輔教会を開いています。様々な行事や祭典の案内、掲示、しおり作成、祭典の準備、補助、教会の清掃や留守番団体参拝の企画・輔佐等が現在行っている主な御用です。毎月二十日の月例祭後に共励会を開催し、信心を深める活動を行っています。教団開催の輔教集会や連合会開催の共励会、イベント等にも参加するようにしています。また記録等を電子文書として整理・体系化し、次世代に円滑に引継がれる仕組み作りにも取り組んでいます。教規にはそれ以外にも沢山の御用の事が書かれています。まだまだ序の口です。

輔教は気持ちがあれば輔教講習を受けることで、誰でも成ることが出来ます。藤沢教会では、今後若い人にも輔教になって頂き、「大難を小難に↓神様のお働きに気付かせて頂く心↓おかげに繋がる信心」を銘に、次世代に引継がれる輪を拡げて行きたいと願っています。



宗教文化講座が行われました

去る十月三十日(月)、宗教文化講座(神奈川県宗教連盟主催)が、神奈川中小企業センターで行われ、約150名(うち金光

○ありがとうございました。(今村則子)

私はこの街頭取次を『駅弁を配る』感覚で実践しています。今の金光教は『食事は大変美味しいけど、宣伝せず呼び込みをしない会員制料亭』の様に感じます。まずはひと口、取次の素晴らしさを味わって貰い、気に入ってもらえば『料亭』教会』に来て、本格的な会席料理を味わって貰える。まずはそのきっかけ作りになればと考えています。

教から40名)が参加しました。

講師は大阪府の金光教羽曳野教会長の渡辺順一先生で、「現代版駆け込み寺を、地域社会に」と題して、様々な連携の下、自身も参画して、無縁

(中段へ続く)

「どうして、お母さんは、いつもどっしりした態度で落ち着いて生活できるのですか?」「私はお取次を頂いているから」「私も教会に連れて行って下さい」と、お嫁さんのほうからお願ひされたという。

信心を伝えるのが非常に難しい時代になったが、やはり折に触れて、金光教の信者であること、信心をしていることを話すべきだろうと思う。

金光教について話す時、まず相手の話をよく聴くこと。相手の話を深く聴くことによって信頼関係が作れる。また、「こんなに大変だった、こんなに辛かった、でも金光教のおかげで助けられた」と自分の恥、苦勞などマイナスの経験を話す、自分をさらけ出すことが大事だろうと思う。私もまだ出来ていないけれど、今後も頑張る努力していきたい。

発表の後、それを受けて意見交換が行われ、活発な意見交換が行われました。最後に会長の講評があり、来年の再会を期して散会となりました。(辻 秀志)

社会の克服を目指して行っている取り組みについて話されました。

生活困窮者支援を通して見える、「生きづらさ」や隠れた貧困など、写真を交えて事例を紹介され、それに宗教がどう対応していくかを問われました。

(村田光治)

「ありがたいと思えること」

大磯教会 岡 和子

母は大磯教会の信者でしたので、私達子どもは母に連れられよく教会へ参拝しました。

その頃母は、お琴の御用もさせて頂いていて、信者さんと一緒に教会で練習していました。私はお琴の先生や教会の先生から吉備舞の御用を勧められたためお受けし、お琴の先生から熱心に教えて頂き、大磯教会の記念大祭に吉備舞を奉納させて頂きました。その頃私は、受験もあり、心の中で勉強もしなければと、少し焦っていました。が、その後の受験でおかげを頂き、子ども心に不思議に思い、びっくりしてありがたいなと思ったのを、今思い出しています。

そして大人になり人生を歩む中で、山あり谷あり大変な時期もありました。「心配する心を神様にお預けして信心する心になりなさい。みんな都合良くなりご利益が頂けます」という御教えを頂き、その時におかげを頂きましてありがたいと思える日々を過ごさせて頂きました。まだまだ未熟ですので、これからも少しずつ信心の勉強をさせて頂きたいと思っています。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信 一

〒245-0017 横浜市泉区下飯田町926・23
金光教横浜西教会内